

N 2 に、月別の平均ピークレベルと最大ピークレベルを図 N 6 に示す。

測定期間内における平均ピークレベル及び最大ピークレベルは、4 局中いずれも与根局で最も高く、また、全ての測定局で軍用機のほうが高い傾向にあった。

最大ピークレベルは、与根局の 5 月に最大値 (101.7dB) を記録し、軍用機・民間機識別機能によると、軍用機による騒音であることが示された。

(6) 民間機・軍用機別の騒音発生回数について

民間機・軍用機別の平均騒音発生回数を曜日別に表 N 3 及び図 N 7 に示す。

民間機では曜日による差が比較的小さいが、軍用機では平日に多く、土曜日及び日曜日に少ない傾向にあった。

(7) 時間帯別の月平均騒音発生回数について

0 時から 7 時 (N1)、7 時から 19 時 (N2)、19 時から 22 時 (N3)、22 時から 24 時 (N4) の各時間帯における月平均騒音発生回数 (回/月) を表 N 4 に示す。

騒音の発生は、7 時～19 時の時間帯に全体の約 80% を占めているが、深夜 22 時～早朝 7 時の時間帯において、与根局で月平均 383.3 回/月と最も多かった。

(8) 環境基準の超過日数について

測定日数と環境基準を超過した日数を表 N 5 及び図 N 8 に示す。

環境基準を超過した日数の割合は、与根局で 83.0% (365 日中 303 日) と最も高く、次に具志局で 15.1% (365 日中 55 日) であった。

(9) WECPNL と 1 日あたりの騒音発生回数の年度別推移について

WECPNL と 1 日あたりの騒音発生回数 (回/日) の推移を図 N 9 に示す。

WECPNL は、糸満局において近年減少傾向にあるが、その他の局ではほぼ横ばいで推移しており、与根局では、毎年、環境基準を超過していた。

(10) L_{night} (※P. 76 参照) と月別の夜間早朝騒音発生回数について

測定期間内平均 L_{night} を表 N 1 に示す。また、月別の L_{night} 及び夜間早朝 (22 時から翌朝 7 時まで) の騒音発生回数を図 N 10 に示す。

測定期間内平均 L_{night} は、4 局中与根局で最大値 51dB であった。月別 L_{night} の最大値は、与根局の 4 月～6 月、8 月、3 月で 52dB であった。

月別の夜間早朝騒音発生回数 (22 時～7 時) は、与根局で 11 月に 457 回/月と最も多かった。

3 まとめ

- (1) 環境基準を超過した測定局は 4 測定局中 1 局 (与根局) であった (前年度は与根局及び具志局)。与根局における民間機・軍用機別の L_{den} は、それぞれ 60 及び 57 であり、民間機で環境基準を超過している状況であった。民間機は発生回数が